

東京医科大学外科学第三講座は、1956年に初代 牧野惟義教授が開講し、1979年より木村幸三郎教授が引き継ぎ、1994年より現在の小柳泰久教授が就任し今日に至っています。

小柳教授は、1963年東京医科大学を卒業後、同大外科学第三講座に入局。1969年からドイツ・ブレーメン市立病院（レーバイン教授）に小児外科の研究のため留学。1980年より助教授となり、1994年に教授に就任し、消化器外科、小児外科を中心に研究・診療を行っています。また、2000年9月から東京医科大学病院・院長を兼任しております。

教室員は教授以下、助教授1名、講師6名、助手12名、研修医・研究医・大学院生合わせて39名、関連病院への出向者85名であり総勢約140名が在籍しております。主な関連の病院として、東京医科大学八王子医療センター、都立豊島病院、都立大塚病院、東京都がん検診センター、神奈川県立がんセンター、愛知県がんセンター、大月市立病院、藤市立病院、社会保険蒲田総合病院などであり、その他23の民間病院に教室員を派遣しています。

また、海外留学施設として、米国UCLAメディカルセンター、Johns Hopkins大学、Cornell大学があり現在4名が海外留学中です。

教室の週間スケジュールは、毎朝8時40分より前日の当直報告、手術

報告、英論文の抄読会が行われ、金曜日夕方より症例検討会、医局会、水曜日午前中に教授回診、土曜日に助教授回診があります。また、隔週土曜日午前8時より、大学院生・研修医のためのモーニングカンファランスが行われております。

診療面においては、主として臓器別に、食道、胃、肝胆膵、大腸、小児外科、乳腺の各グループにわかれ、専門的な治療を行っております。当教室における入院患者は年間平均1100名、年間手術件数は約900例であります。研究面においては、臓器別の体制を取り払い、基礎研究から臨床研究まで、教室員一丸となって行っております。

また、本年度当教室で担当する学会・研究会は、第13回日中消化器外科学術交流会議（6月）、第11回日本癌病態治療研究会（6月）、第47回道色素研究会（6月）、第64回日本臨床外科学会総会（11月）、第18回日本小児外科学会秋季シンポジウム（11月）であります。

臨床・教育・研究・学会活動におられる毎日ではありますが、最先端の研究と臨床を結び付け、患者さんに最高の医療を提供することを最優先とし、教室員一同日夜努力しております。

## 東京医科大学外科学第三講座